

ビバハウス便り NO. 64 「北星余市高の教育の発展を願う会」結成の呼びかけ

ビバハウス運営委員長 安達俊子

長引く天候不順のため、延び延びになっていた仁木町のトマト農家でのアルバイトがようやく始まった。待ち焦がれていたビバの若者たちは、これまで朝起きられなかったものもそろって元気に自転車で、車の迎えが来る余市駅に向かって飛び出していく。働く場があることは、若者たちを生き返らせる！

8月1、2日だけ、何とかやりくりして、第47回全国高校生活指導研究協議会全国大会（大阪）に参加してきた。それも全体会にはほとんど参加できず、1日夕だけでも私たちが参加できるならと特別に企画していただいた、「高卒後の若者たちの就労にかかわって～School To Work」交流会のみが完全参加だった。東大の本多由紀教授、大阪青年ユニオン、労働者協同組合のそれぞれ20代の活動家、ビバハウスからそれぞれ発題をし、それをめぐって全参加者が、自らの取り組みの紹介とあわせて自由に討論した。NHK、共同通信などマスコミ関係者も多く、またさまざまな分野で若者の就労支援のため全国で頑張っているかたがたとの新しい出会いは、これからのビバの活動にとっても何よりの収穫だった。この大会で来年の大会は北海道でと正式に決定した。私たちが出来ることは何か今から考えたい。

大阪から帰り、北星余市高校の幅口和夫校長とも話し合い、いよいよかねて考えてきた、北星余市高への新たな新入生獲得プログラムを具体化しなければならないとの思いを強くした。（ビバハウス便りNO. 60 完全不登校の“中学卒業生”にも高校進学を！参照してください。）以下現在考えている私案ですので、ぜひご自由なご意見をお聞かせいただければ幸いです。

「個人加入（仮称）「北星余市高校の教育の発展を願う会」結成の呼びかけ

現在の日本の教育の困難の中で、全国の子どもや親ごさん達から、その存在が強く注目されてきた北星余市高校の教育も、いまや存亡の危機にあります。本年度の新入生はわずかに66人（定員190人）、同じような状態はここ数年間変わらず、かつて600人以上いた在校生総数は、現在244人しかいません（総定数は570人）。（中略）なんとしてもこの危機を乗り越え、全国の高校教育の先駆者として類のない働きを果たしてきた北星余市高校の教育の光を今後も燦然と輝かせ続けることを願って、私たちはこの会を作りました。

本会の目的を達成するため、下記の様な、「北星余市高受験生養成のためのセミナー」を+企画します。北星学園理事会と北星余市高校との合意では、来年度以降最低80名以上の新入生を確保できれば、即廃校への道は避けたいとのことです。（北星余市高 幅口和夫校長談）

この新入生を確保するために、本会とビバハウス、若者自立塾ビバの総力を上げて、現在青少年自立支援センタービバハウスが運営する、自然体験型フリースクール・ビバスクール（近藤芳二校長）に定員10名の北星余市高校入学希望者のための特設セミナー（高校入学のための条件作りの予備校）を設けます。（セミナーの詳細については、近日中に発表予定）